



BHUTAN

学校名：群馬県立桐生女子高等学校

氏名： 田中 隆志

[担当教科：地理歴史科]

- 実践教科等：世界史A(3単位)
- 時間数：2時間
- 対象：高等学校2年生
- 対象人数：42人

[1]単元名

ブータンを通して、「相互依存の世界」の中で、日本が外国とどのように接していけばよいのかを考える

[2]単元の目的/目標（ESDの能力・態度）

今回のブータンの主題学習に対して、私は2つの学習目標を設定した。

まず一つは、多くの課題をもつ一方で、たくさんの魅力にも恵まれた両面性をもつ国・ブータンを通し、「内向き志向」といわれる今の日本に必要なとされる、「外国との相互依存的なかかわり方」をトレーニングする目的である【多様性】【相互性】【連携性】【公平性】。つまり相互依存度が高まってきている現代世界ではとくに、政治、文化、宗教、経済力の差を越えたところで、困っている国があれば手をさしのべ、またお互いのことを尊重して学ぶべき点があれば謙虚に学んでいく姿勢が求められている。そうした姿勢や思考方法をトレーニングしていく上でも、両面性のはっきりしているブータンは教材として適していると考えた。

また二つ目は、ブータンの歴史的・地理的特性から、生徒たちに多くの課題を考えさせるという目的である。今回取り上げたブータンについては、歴史・地理教科書での扱いは多くはない。植民地時代にイギリスがインド支配を強めていく中で、北にある中国の清に対する防衛ライン(緩衝国)として支配下に組み込んでいったことが、若干触れられる程度である。しながら私は、JICAの平成25年度教師海外研修事業で、実際に10日間ブータンを訪問する中で、この国が、実に多くの特殊性を有した国だということを知ることができた。つまり①原初的なガウタマ=シッダールタの思想を色濃く残すチベット仏教を世界で唯一国教にした国、②歴史的に中華人民共和国やインド・イギリスなどとの力の均衡で国家の枠組みを維持してきた政治的緩衝国、さらには③1990年から多くのネパール系難民を発生させ国連、世界銀行、UNHCRなどから非難を受けている国、④国王によるトップダウンによる特異な民主化を断行した国。⑤GNH(国民総幸福量)を政策ビジョンとして掲げ、国際政治に大きな影響力を与えている国、⑥温暖化によるGLOF(氷河湖決壊洪水)により自然・生活環境が脅かされる国というさまざまな面をもつことを知った。したがって私は、このブータンを、より丁寧に生徒に分析、考察させていくことで、仏教思想、国と国との関係、マイノリティの問題、民主化のプロセス、国際社会のあるべき姿、自然環境の問題など、歴史的・地理的課題に気づかせることにつながるのではないかと考えた【責任性】【有限性】。

[3]ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性
公平性	連携性	責任性

[4]単元の構成

時 限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1 ・ 2	1 授業の主旨確認	<ul style="list-style-type: none"> ・主旨の一つが、外国との接し方において、日本に足りないものを謙虚に学び、その国に不足するものを支援するという相互支援という思考のトレーニングにあったことを確認する。 ・主旨の二つ目が、仏教とはどういうものか、国家と国家との関係、難民問題、民主化のプロセス、国際社会のあるべき姿など、様々な歴史的な課題への気づきだったことを確認する。 	・PowerPoint 資料	・傾聴する態度
	2 プレゼンのローカルルール確認	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめます」でスタート、「終わりにします」で終了というルールや、各班の発表を10分前後で行うことなどのローカルルールを確認する。 ・相互の発表のシェアのため、事前に配布したワークシートに他の班の発表に対して、気づいた点や印象に残った点を最低1つ以上書くことを予告する。 	・PowerPoint 資料	・傾聴する態度
	3 各班の発表 (1班～6班)	<ul style="list-style-type: none"> ・各班のプレゼンを行わせる。 ・他の班のプレゼンの際には、ワークシートに、気づいた点、印象に残った点を最低1つ以上かく。 	・ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴する態度 ・ワークシートへの書き込み
	4 各班の代表者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の代表者より、今回のワーキング全体を通しての感想を言わせる。 		・傾聴する態度
	5 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のワーキングを通して学んだ視点、気づいた点を今後の世界の学習でも、覚えておいてほしい旨生徒に告げる。 		・傾聴する態度

[5]授業の詳細

1限:ブータンとその6分野についての概観

まず生徒を整番によって6～7人の班に分け、机についてもグループ学習の形態にシフトした(これ以降、すべての活動をグループワークとした)。そのうえで、次の時間から、歴史的な特殊性をもつブータンについて、班別にテーマを決めてワーキング方式で考察してもらう予告した。

続いてPowerPointを使ってブータンの位置、6分野(自然・政治・医療・教育・生活文化・信仰)についての基本情報を、教師がPowerPointをつかって概観した。教師が基本情報をレクチャーする際、生徒に

は白紙の用紙を配布し、ペンでそこに六分割するラインを引かせ、メモ用紙として使わせた。事後の情報整理学習のための予備知識として、全分野の基礎情報が必要だと考えたためである。もちろんレクチャーの中では、①原初的なガウタマ＝シッダールタの思想を色濃く残すチベット仏教を世界で唯一国教にした国、②歴史的に中華人民共和国やインド・イギリスなどとの力の均衡で国家の枠組みを維持している政治的緩衝国、さらには③1990年から多くのネパール系難民を発生させ国連、世界銀行などから非難を受けている国、④国王によるトップダウンによる民主化を断行した国。⑤GNH(国民総幸福量)を政策ビジョンとして掲げ、国際政治に大きな影響力を与えている国というさまざまな面をもつことを生徒に示した。

2 限：班ごとのテーマ決め、ブータンの「よい面」についての情報抽出と情報整理①

前時の教師のレクチャーをもとに、班ごとに、自分たちの取り扱うテーマを6分野(自然・政治・医療・教育・生活文化・信仰)から選択させた。その上で、模造紙、マジック、さらに各テーマの「ブータンの良い面、課題点、その他を示す自作カード190枚強(L判のもの数十枚ずつ)」をシャッフルしてそれぞれの班に配布し、「よい面と課題点を示すカード」の2つに仕訳をさせた(情報抽出)。なおその作業にあたっては、特定の生徒に作業が集中しないように、作業をシェアして行うよう指示を与えた。

また次の段階で、模造紙の目立つところに大きく「分野名」を書き、まわりに「よい面を示すカード」を、関連のあるものを近くに置くルールで配置させ、それらを線で囲むなどグルーピングすること。さらにその周りにタイトルやテキスト、イラストを書くなどして、「何がよい面なのかを伝えるためのキャラクターマップ」を作るよう作業の指示を出した。作業については、グループワークだったので司会役のような人を決めて、話し合いをすすめながら行うように指示を出したが、班ごとに進行役が自然に決まっていた。また後日のプレゼンによって自分たちの班が扱った分野についての「ブータンの良い面」が明確に伝わるようなまとめ方をするように指示を出した(情報整理)。また適時、机間巡視をして生徒から質問を受け、作業の助言をした。

3 限：ブータンの「よい面」についての情報抽出と情報整理②

班ごとに、模造紙作業の進捗や、完成度に差があったが、多くの班で前向きな取り組みがおこなわれた。そして模造紙上のまとめを軸に情報整理が進められた。

4 限：ブータンの「よい面」についての情報整理内容のシェア①

班ごとに、前時までに作成した模造紙を使った情報整理内容を、全員の前でプレゼンさせた。発表にあたっては、「はじめます」でスタート、「終わりにします」で終了というルールや、各班の発表を最大10分で行うことなどのローカルルールを確認し、6班中、4つの班の発表を行わせた。また情報整理の形式(プレゼンの仕方)、情報整理の内容の精度について相互評価させるために、評価票(別紙あり)を全員に配布して、それぞれの発表が終わるごとに評価票への記入を行わせた。6班のうち、時間の都合で4班の発表にとどまった。

5 限：ブータンの「よい面」についての情報整理内容のシェア②、整理した情報の焦点化

前時と同様の流れで、残る2班にプレゼンを行わせた。

すべての班の発表が終わったところで、「情報整理の上でのポイントが絞られていない課題」が見いだされた。そのため、各班にはさらに「よい面を焦点化するための作業」を行わせ、その結果を各班の代表者に発表させた。つまりまずA3サイズの画用紙、付箋紙を配布し、一人3枚ほど「各分野についてのよい面」を出させて、同じような内容のものを1つにグルーピングさせるなどして、それをまとめさせた。付箋紙を使ったブレインストーミングによる情報整理である。そして「そのまとめたもの」をもとに各グループの代表者に短時間で発表させた。

6 限：ブータンの「課題点」についての情報抽出と情報整理①

続いて、「課題点」についても、模造紙と配布したカードを使って情報整理を進めさせた。このような情報整理の作業は2度目であったため、「よい面」について情報整理を行わせたときよりも、効率的に行える班も出てきた。一方で、イラストなども手書きのものを加えるなど、様々な工夫を行う班も現れた。

7 限：ブータンの「課題点」についての情報整理内容のシェア①

班ごとに、前時までに作成した模造紙を使った情報整理内容の発表を、全員の前で発表させた。発表にあたっては、「はじめます」でスタート、「終わりにします」で終了というルールや、各班の発表を最大10分で行うことなどのローカルルールを確認して、3つの班の発表を行わせた。また情報整理の形式(プレゼンの仕方)、情報整理の内容の精度について相互評価させるために、評価票を全員に配布して、それぞれの発表が終わるごとに評価票への記入を行わせた。6班のうち、時間の都合で3班の発表にとどまった。

8 限：ブータンの「課題点」についての情報整理内容のシェア②、整理した情報の焦点化

前時と同様の流れで、残る3班に発表を行わせた。

そして「5限で行った付箋を利用した焦点化作業」が有効と考えられたため、ここでも、各班にはさらに「課題点を焦点化するための作業」を行わせ、その結果を各班の代表者に発表させた。つまりA3サイズの画用紙、付箋紙を配布し、一人3枚ほど「各分野についてのよい面」を出させて、同じような内容のものを1つにグルーピングさせるなどして、それをまとめさせた。そして「そのまとめたもの」をもとに各グループで代表者を決めさせ、短時間で発表させた。

9 限：これまでのワーキングを踏まえた、ブータンとの関わりについての「意見」検討

この時間には、1限～8限までのワーキングの中で、整理をすすめてきた「ブータンのよい面と課題点」の情報に基づいて、「今後、日本人はブータンに対して、どのようにかかわっていくべきかの意見」を、各班で検討させた。とくに、ここでは、これからの日本に必要な「外国との接し方において、日本に足りないものを謙虚に学び、その国に不足するものを支援するという相互支援」というコンセプトで「意見」を検討させた。なおこの際にも、各班にA3サイズの画用紙、付箋紙を各班に配布し、一人3枚以上の「アイデア」を出させ、それをまとめさせた。

10 限：これまでのワーキング成果を総合化した「主張」の組立て

これまで模造紙や画用紙で整理してきたブータンについての情報、相互支援のための提案を統合した、「一つの主張」となるように「情報の総合化」を行わせた。またその際、最終的なプレゼンに向けてのイメージができるように、「発表原稿」のフォーマットを提示して、原稿を作成させた。具体的には、各班が12分以内でプレゼンできるように、「主張」の組立てを考えさせた。またこれまで作成した模造紙などを材料として、主張ができるよう組立てを考えさせた。

[6]生徒の反応/変化

今回の主題学習は、教師が配布した情報カードをもとに生徒たちに、模造紙や付箋紙を使って情報整理を行わせ、考えさせ、最後、それらを総合した「主張」をプレゼンさせる展開で行われた。こうした学習パターンは生徒もはじめてだったため、当初は、戸惑いもあり作業、議論が進まない班もあった。ただそのうちどの班の中にも、そのうちイニシアティブを取る生徒が現れ、きちんと議論を進め、創意工夫して模造紙を作成していた。普段の座学の授業では無気力な印象の生徒が、中心になっている光景も見られた。授業終了後、ワークシートに書かせた感想には、他国をじっくり考え、その中から様々な課題、学びに気づけたことに対する「達成感」を伺わせる内容が多かった。また他国を「幸せの国」といった一面的な見方で見るのではなく、客観的な情報に基づいて良い点、課題点を客観的に分析し、可能な学びや支援を考えるべきだとの感想も得られた。

[7]授業実践の成果と課題

ワーキングはクラスを6班に分け、それぞれの班に自然、医療、教育、政治、生活文化、宗教と他宗教への対応といった6分野について探求させる形で行わせた。それぞれの分野ごとの学習は大いに深まったと考える。ただ時間的な都合で、最終的なプレゼンのあとのクラス全体での情報交流、シェアが行えなかった。今後は、生徒たちが作成した模造紙、プレゼンの様子を録画したビデオ、プレゼン後生徒たちに乾燥などを書かせた「ワークシート」などを素材として、ワーキング全体をふりかえる時間をもうけたい。

[8]参考文献(引用文献・参考資料)

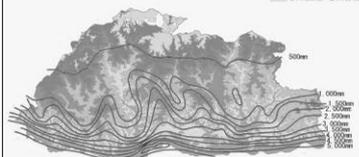
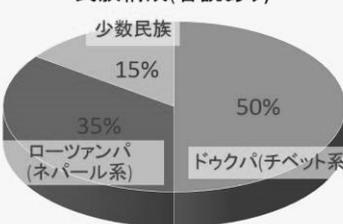
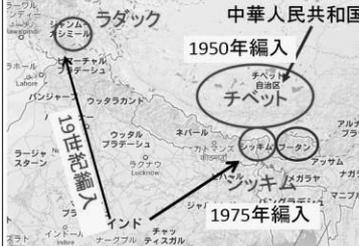
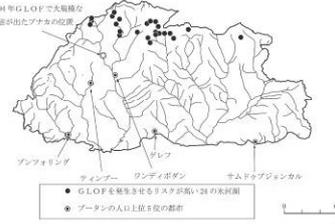
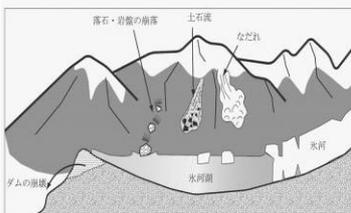
- ・YouTube 動画「緒方貞子 JICA 理事長 2011.11.21」(<http://www.youtube.com/watch?v=TfdvYKQAUQM>)
- ・世界銀行公式サイト(<http://data.worldbank.org/country/bhutan>)
- ・世界銀行ブログ
(<http://blogs.worldbank.org/endpovertyinsouthasia/how-can-poverty-mapping-support-development-bhutan>)
- ・WHO 公式サイトブータン健康プロフィール(http://209.61.208.233/EN/Section313/Section1517_6788.htm)
- ・文部科学省「ブータンの氷河湖決壊洪水に関する研究」
- ・UNHCR公式サイト(<http://www.unhcr.org/pages/49e487646.html>)
- ・Bhutanese Refugees in Nepal(<http://www.ne.jp/asahi/jun/icons/bhutan/main.html>)

・ブータン生活紹介 (<http://www.geocities.co.jp/SilkRoad-Desert/2332/index.htm>) など

[9]使用教材(写真/図などの実物)

添付 1

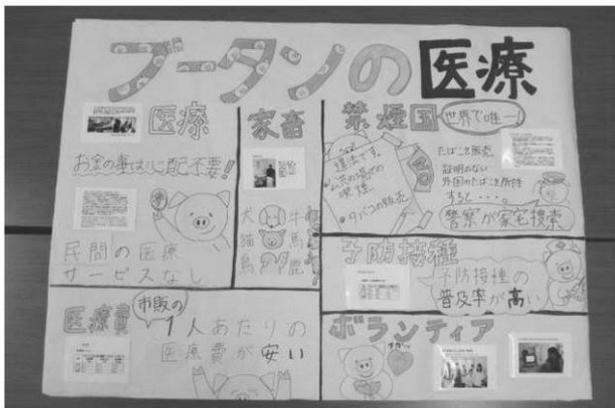
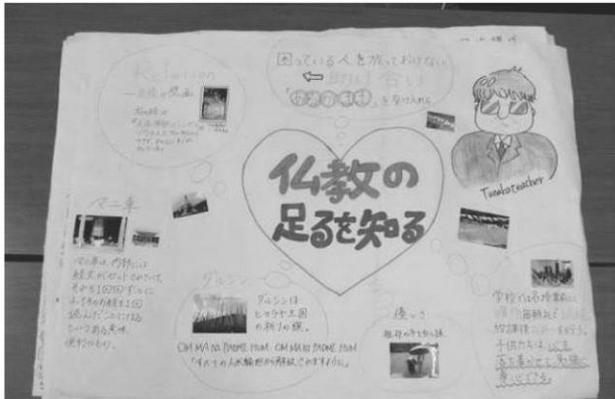
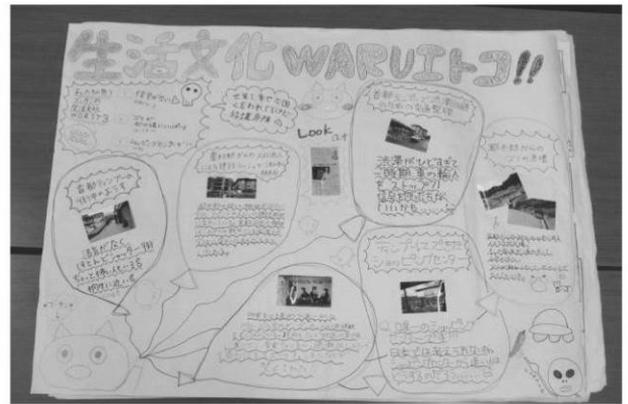
・生徒に、配布した 190 強のカード(L版で印刷)の一部

<p>1907 ブータン王国成立(親英のワンチュク政権)</p>  <p>強大な軍隊を形成して他勢力を一掃、領国内の統一を果たした。</p> <p>絶対君主制</p> <p>1910 ブナカ条約 補償金と引き換えに外交指導権をイギリスにゆだねる</p> <p>→ 1949年までイギリスの保護国(半植民地)へ</p> <p>1949 インド・ブータン条約調印</p> <p>→ 独立権は回復したもののイギリスとの関係が引き継がれる</p>	<p>降水</p> <p>・北は1000mm未満で 乾燥 ・南は1000mm以上で 湿潤</p> 	<p>居住地域 人口70万人</p> <p>BHUTAN MAP</p> 
<p>民族構成(各説あり)</p> 	<p>中華人民共和国</p> <p>1950年編入</p> <p>チベット</p> <p>1975年編入</p> <p>ラダック</p> 	<p>新首相が決めたインドとの関係</p> <p>・ブータンはインドと中国という大国同士の睨みあいの中で、インド側に立つことを決めた。</p>  <p>インドがブータンに750億円支援 首脳会談で声明</p> <p>2013.3.100:01</p> <p>インドを訪問したブータンのトプガイ首相は3日、インドのシン・ソーダと初会談した。両国は同国の信頼関係を再確認。ブータンの第1次5カ年開発計画と経済改革策にインドが約500億ルピー(750億円)を支援することを発表した共同声明を発表した。ブータンでは7月の総選挙で、野党連立を率えた第1回臨時首相のトプガイが、インドとの関係強化を新たなトッププライオリティとする国民民主開発政策を掲げていた。(ニューズリー 岩田健雄)</p>
<p>ディグラムナムジャ(Driglam Namzhang)の精神</p> <p>「ディグラムナムジャ(Driglam Namzhang)の精神」は学校でも学ぶ礼儀作法で社会人としての基本的マナーのこと。「Drig」は調和、「Lam」は身のこなし、「Nam」は秩序・制度、「Zhang」は保持を意味する。教養のある人間の振る舞いに関する規則や規律の事で、着物の着方、食事作法、挨拶・振る舞い、儀式、寺院への入り方、などが細かく定められている。</p> 	<p>2012貧困率</p> <p>・2011年にアジア開発銀行が公表した資料によると、1日2ドル未満で暮らす貧困層は17万人と推定され、国民のおよそ25%を占めている。国際連合による基準に基づき、後発開発途上国(最貧国)に分類されている。これに対して国内には、GNIよりも経済発展を望む主張もある。</p> 	<p>1991年GLOFで大規模な被害が出たブナカ谷の地図</p>  <p>● GLOFを発生させるリスクが高い湖の周囲 ● ブータンの人口上位5位の都市</p>
<p>都市部からのゴミの急増</p> <p>首都ティンブー郊外の山中にあるメラカ処分場</p> 	<p>祖母の手を引く孫</p> 	<p>11万人の難民が流出しているネパール・インドの難民キャンプ</p>  <p>● 難民キャンプには、ヒンドゥー教寺院の他に仏教寺院やキリスト教系の集会所があり、ブータン国内よりも人権や自由、多様な文化への尊重がある。</p>
<p>仏教の「足るを知る」の教え</p> <p>・ブータンのチベット仏教では、「足るを知る者は富む」とされる。そのため「周りに困っている人がいたら、自分だけ幸せにはなれない」ため常に助けあう。そして「人生は業でつながり、それに反することはできないけれど、最善を尽くして、あとは「あるがまま」を受け入れる。GNHもこの教えからきているものである。</p> <p>ブータン政府が巨大地震の犠牲者に祈りを捧げる</p> 	<p>GLOF(氷河湖決壊洪水)の原因</p> 	<p>現代医療の病院のICU(集中治療室)の様子</p> 

授業実践

添付 2

・添付 1 をもとに生徒が情報整理して作成したプレゼン資料(模造紙)の一例



[10] 教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

今回の研修を通し、私は、現代の「相互依存の世界」の中で、自分たち日本人が外国とどのように接していけばよいのかを考える、大変貴重な機会を得たと認識しています。相互依存の関係とは、利害関係だけでなく、政治、宗教、文化、経済力の差を越え、助けを求め、課題を抱える国があれば、支援の手を差し伸べる。お互いのことを尊重しあって、学ぶべき点があったら、謙虚な姿勢で学んでいく関係です。互いが互いを必要とする家族のような関係です。ただ現状、「内向き志向の日本」ではまだまだ、外国を第三者的に評価し、この国は「貧しい」とか、「幸せだ」というレッテルを貼り、全てを理解したように思い込み満足する風潮もあるかと思えます。私は、今後も、学校での授業実践を通し、「是々非々で付き合っていくことが、外国との相互依存の関係を構築する上では必要なのだ」という、研修を通してまとめた自分の思いを、生徒たちに伝えたいと考えます。

授業実践